

景観で「絆」を育み、景観で「選ばれる」まちをつくる

～ 南知多町景観計画作業部会（第2回）通信 ～

日時 令和5年1月25日（水）13:30～15:30

場所 南知多町役場

作業部会の目的

現在、本町では景観法に基づく南知多町景観計画の策定に向けた検討を進めています。

「景観」は、地勢をベースにした空間的な基盤の上で、人々の様々な営みにより生み出されるものであり、南知多町が目指すべき「景観」は、目指すべきまちの「視覚的な姿」に他ならないといえます。

そのため、南知多町の様々なまちづくりの施策が「景観」と関わってくるものであるとともに、「景観」の観点を考慮しながら施策を進めていくことが重要であり、庁内で景観施策を進めることの意義を共有し、連携していく必要があると考えます。

作業部会は、この庁内連携に関わる内容(施策等)の協議に重点を置き、策定後の効果的な推進につなげます。

第2回の目的

- 南知多町の「景観への意識・課題」を共有します。
- 各課が持ち寄った景観施策等について、プレーヤー等をイメージしながら「景観まちづくり」について考え、「計画に位置づける施策」としての検討材料(アイデア出し)とします。



次第

1. 開会
 - ・第1回作業部会の振り返り
 - ・本日の獲得目標と進め方
2. 南知多町の景観への意識・課題を共有する
 - ・町民アンケート調査結果の報告
 - ・景観課題の再整理
3. 前回の“個別施策”から“施策の連携”を考える
 - ・景観課題に関連づけた景観施策の振り返り
 - ・人的リソース(資源)等の紹介
 - ・ワークショップ
4. 閉会
 - ・事務局からのお知らせ

作業部会メンバー

区分	所属	名前 ※()内はグループ名
作業部会 関係課	企画財政課	企画政策係長 奥村卓矢 (A)
	産業振興課	農政係長 榊原康広 (A)
	環境課	環境保全係長 家田直政 (B)
	まちづくり推進室	空き家対策係長 堤田健太 (A)
	防災危機管理室	防災危機管理室長 石黒俊光 (B)
	社会教育課	社会教育係長 齋藤 桂 (B)
	健康子育て室	主幹兼児童係長 中村英樹 (B)
		主幹兼健康推進係長 伊藤尊人 (A)
	学校教育課	指導主事 中村浩二 (A)
水道課	主幹兼工務係長 山下哲矢 (B)	
事務局	建設経済部	部長 滝本恭史 (B)
	建設課	課長 山本 剛 (A)
		都市計画係長 石橋暁登 (B)
		都市計画係 山本丞馬 (A)
都市計画係 林 俊太 (B)		
	(株)地域計画建築研究所 (アルバック)	
その他	愛知県都市・交通局 都市基盤部	公園緑地課景観グループ 課長補佐 野本敬弘(欠席)

Aグループ（テーマ：空き家・空き店舗）

予防策	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅耐震対策として除却費補助(建設課) ・「空き家の何が問題なのか」の啓発事業 ⇒ 誰が？ ⇒ 子どもに「自分たちの問題とわかってもらう」⇒ 自分ゴトにする 	
活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク事業【既存:まちづくり分野】 ・空き家活用ビジネス起業支援、リノベーション【産業振興分野】 ・移住促進(農村・漁村) ・子ども(特に中学生)から活用のアイデアを募集 ・中学生向け「空き家見学」ツアー ⇒ 中学生による全国空き家活用事例プレゼン 	
管理	<ul style="list-style-type: none"> ・けんこう南知多プラン(ウォーキングマップ)【既存:健康分野】 ⇒ ウォーキングする人が危険空き家を見つけて情報共有 ・「高齢者への住民による見守り」×「空き家の予防・啓発」 	
除却	<ul style="list-style-type: none"> ・特定空家等対策支援事業、住宅特例の除外【既存:まちづくり分野】 ・防災対策として危険家屋の予防的除却 	
連携施策	空き家問題を「自分ごと」に！	

Bグループ（テーマ：海・海岸のゴミ）

現状や課題	対応方策
<ul style="list-style-type: none"> ・町外ボランティアでゴミ拾いをやりたい人がいる ・企業もゴミ拾いを結構やっている ・区長さんはじめ、各区ごとに清掃はしている ・内海観光協会にゴミの置き場所がある ・土曜日は前もって清掃の連絡があれば、クリーンセンターに町が連絡し、持ち込んでもらうことができるが、そうではない場合土日捨てる手段がない。持って帰ってでもやってくれる人だけにしかないのか ・漁港周辺にも釣り客や住民が出したゴミがある ・日帰り来た人に対しどうしていくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の窓口をはっきりとさせた上で周知する ・窓口、ルートができるとうい ・日曜日の急な対応として仮置き場を準備 ・サンドアートなどキレイになるだけでお客さんもいいと思う ・サンドアートでボランティアの人の名前を書く ・目に見える形でPR ・企業の地域貢献のひとつとしての意識づけ ・減免措置(クリーンセンターへの持ち込み)
<ul style="list-style-type: none"> ・内海、豊浜、島の学校は海に連れて行き学習している ・内海には海洋学習できる場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・(ゴミ問題の)授業での取り入れ ・町外向けに林間学校でゴミ等環境学習取り入れ ⇒ 海のない地域との交流や関係人口を増やす ⇒ 幼少期の良い思い出につながる
<ul style="list-style-type: none"> ・役所の中でできることに限界もある ・外の力を借りないと対応しきれない 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 環境課や産業振興課、観光協会等の連携による宿泊や教育への協働
(アンケート結果報告からの感想) <ul style="list-style-type: none"> ・ルールはあまり求めていない? ・空き家への意識は高い ・管理が行き届かない苦労がある ・地域により課題、意識が違うので各々で考えることが必要 ・太陽光パネルへの関心が高い 	 

今後の予定

今回は、第2回のアイデアを材料に、『“絵に描いた餅”に終わらないような、また、計画への位置づけが可能な連携施策』として取りまとめる予定です。その際、施策実施の連携体制、ロードマップ、事業費、連携による効果・課題等についても検討します。

次回の作業部会は、次年度6月の開催を予定しています。